

2022 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 千鳥会



目次

法人本部	2 ~ 6
特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド	7
津名デイサービスセンター	7
千鳥会居宅介護支援事業	8
千鳥会在宅介護支援センター	8
高齢者住宅等安心確保事業	8
特別養護老人ホーム ゆうらぎ	9 ~ 10
ゆうらぎデイサービスセンター	10
ゆうらぎ訪問介護ステーション	10 ~ 11
養護老人ホーム 北淡荘	11 ~ 12
地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ	12 ~ 13
千鳥会デイサービスセンターほほえみ	13
小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	13 ~ 14
グループホーム しおさい	14
しおさいデイサービスセンター	14 ~ 15
小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり	15
佐野デイサービスセンター	15
ちびっこランド ちどり	16
ちびっこランド ぬくもり	16
千鳥会福祉用具貸与事業所	16

2022年度 社会福祉法人 千鳥会事業報告書

1. 評議員会・理事会報告

	開催日	開催場所	出席者数/定数	議 題	欠席者氏名	監事出席の有無 出席者氏名
理事会	2022年4月21日	しづのおだ まき館	6/6	① 入札予定価格の決定	なし	宮尾慶子 樽野敏朗
評議員会	2022年4月21日	しづのおだ まき館	6/8	① 入札予定価格の決定	仲野和美 川端英樹	宮尾慶子 樽野敏朗
理事会	2022年4月21日	しづのおだ まき館	6/6	① 落札業者の決定	なし	宮尾慶子 樽野敏朗
評議員会	2022年4月21日	しづのおだ まき館	6/8	① 落札業者の決定	仲野和美 川端英樹	宮尾慶子 樽野敏朗
理事会	2022年6月6日	千鳥会 法人本部	5/6	① 2021年度 社会福祉法人千鳥会 事業報告の件 ② 2021年度 社会福祉法人千鳥会 第二次補正予算の件 ③ 2021年度 社会福祉法人千鳥会 決算報告の件 ④ 2021年度 社会福祉法人千鳥会 監事監査報告の件 ⑤ 社会福祉充実残高の算定について ⑥ 次期役員候補者の評議員会への推薦 ⑦ 定時評議員会開催・議題について	佐藤俊彦	宮尾慶子 樽野敏朗
評議員会	2022年6月20日	千鳥会 法人本部	7/8	① 2021年度 社会福祉法人千鳥会 事業報告の件 ② 2021年度 社会福祉法人千鳥会 決算報告の件 ③ 2021年度 社会福祉法人千鳥会 監事監査報告の件 ④ 社会福祉充実残高の算定について ⑤ 次期役員選任の件	仲野和美	宮尾慶子 樽野敏朗
理事会	2022年12月19日	千鳥会 法人本部	6/6	① 2022年度 社会福祉法人千鳥会 第一次補正予算案の件 ② 2022年度施設整備事業の件	なし	宮尾慶子 樽野敏朗
理事会	2023年3月27日	千鳥会 法人本部	6/6	① 2023年度社会福祉法人千鳥会 事業計画の件 ② 2023年度社会福祉法人千鳥会 予算の件	なし	宮尾慶子 樽野敏朗

2. 施設整備事業

旧津名図書館利用活用

2023.2.1 開設

◎ 千鳥会ゴールドより 在宅介護支援センター・居宅介護支援事業所の移転

総合相談窓口の設置

◎ 小規模多機能型居宅介護事業所 めくもりの移転

◎ 地域型保育事業所の開設

2023年4月1日開設

◎ 小規模多機能型居宅介護事業所 めくもり跡地 ⇒ 障害者施設 グループホーム RAVIE

3. スキルアップ研修

研修対象職種	講師名	研修内容	実施日	参加人数
新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし				

4. 職員福利厚生

実施内容	実施日	実施種目／実施場所	参加人数
職員福利厚生事業	新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし		
職員親睦会 (各事業所)	新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし		
職員健康診断 (前期・後期)	2022年8月～9月	ゆうらぎ・北淡荘・本部	97名
	2022年7月～9月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ	95名
	2022年8月	ほほえみ・ちびっこランドちどり	63名
	2023年1月	ほほえみ	20名
	2023年1月	ゴールド・しおさい・ぬくもり	34名
	2023年3月	ゆうらぎ・北淡荘	36名
職員腰痛検査 (前期・後期)	2022年8月	ほほえみ	41名
	2022年8月～9月	ゆうらぎ・北淡荘	76名
	2022年9月～10月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ	83名
	2023年1月	ほほえみ	24名
	2023年1月	ゆうらぎ・北淡荘	65名
	2023年3月	ゴールド・しおさい・ぬくもり・佐野デイ	79名
インフルエンザ 予防接種	2022年11月	全事業所	250名
職員面談	5～6月、10～11月	全事業所	全職員

5. 入社式(入職者)・退職者

入社式	新入職員数
2022年4月1日	5名
2022年6月1日	2名
2022年8月1日	4名
2022年10月3日	3名
2022年12月1日	4名
2023年2月7日	6名
合計	24名

月	退職職員数
4月	1名
5月	0名
6月	1名
7月	2名
8月	2名
9月	1名
10月	0名
11月	1名
12月	3名
1月	5名
2月	3名
3月	3名
合計	22名

6. 産前産後休業・育児休業・復帰後短時間勤務取得者数

産前産後休業	1名
育児休業	1名
短時間勤務	1名

7. 職員奨励金・助成金

	事由	内容	件数
自己啓発支援	報奨金	介護福祉士	3件
自己啓発支援	報奨金	実務者研修修了	1件
自己啓発支援	報奨金	介護職員初任者研修課程	1件
自己啓発支援	報奨金	社会福祉主事	1件

公益事業・・・社会福祉事業以外の事業で、その事業を行う事が公益法人の事業となり得る社会福祉と関連する事業

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	ぬくもり	佐野デイ	ちびっこ ランド
社会福祉法人減免制度	低所得で生計が困難な方について、介護保険サービスの提供を行う社会福祉法人等が、その社会的な役割にかんがみ、利用者負担を軽減することにより、介護保険サービスの利用促進を図ることを目的とする。	○	○	○				
介護予防教室	早い段階から高齢者ができる限り自立した生活を送れるように支援することにより、要支援や要介護状態の予防やその重度化の予防と改善を図る。	○	○					
介護技術講習会	要介護・要支援状態になっても出来る限り在宅で安心して暮らし続ける為には介護保険サービスを利用する事に加え、家族の介護力を高める	○		○				

	事も重要である事から、外部向けの技術研修を実施し、家族介護力の向上を目的とする。							
認知症予防教室	認知症の早期発見・重症化予防および要支援、要介護状態になることを防ぐこと、認知症について正しく理解し、自宅でも継続して取り組める予防方法を周知することで、参加者がいきいきと自立した生活を送れることを目的とする。	○		○				
福祉体験学習事業受入	夏休み中に福祉施設での仕事の様子の見学、体験をしたり、高齢者や障がい者と触れ合うことで、思いやりの心を育てるとともに、福祉に関わる仕事を身近に感じ、興味を持ってもらう。	○	○	○	○	○	○	○
認知症サポーター養成研修(委託事業)	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、千鳥会在宅介護支援センターとして委託を受けて実施する。	○	○					
地域サポート型施設(兵庫LSA又見守り活動)	高齢者の在宅生活を支援するため、生活援助員(LSA)等を配置して地域住民を対象に24時間体制の見守り等を行う。	○	○	○				

地域公益活動・・・社会福祉事業や公益事業のうち公的制度の給付対象外のもの(公的制度の給付対象となっていないもの)

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	ぬくもり	佐野デイ	ちびっこ ランド
学生の実習生の受入れ	高校・短大・専門・大学の学生が履修するカリキュラムの中での実習の受け入れを行い、福祉学習の充実を図る。	○	○	○	○	○	○	
職場体験(トライやるウィーク)	ボランティアや福祉体験を共有する取り組みや、「トライやる」アクションでの社会福祉施設等における介護等の体験により、福祉学習の充実を図る。	○	○		○	○		
祭り地域交流(春・夏・秋)	地域交流の一環として、季節のお祭り行事を通じて地域住民を招待し、ご利用者、スタッフ共に地域との交流を図る。	○	○	○	○		○	
各種ボランティア(慰問等)の受け入れ	施設への慰問を通じて、外部ボランティアとご利用者との交流を図る。	○	○	○	○	○	○	○
いきいき100歳体操	地域住民の健康増進を目的としていきいき100歳体操の実施場所として、無料で施設を開放。		○	○			○	
訪問サービス(介護保険外事業)	低所得者を対象に、介護保険サービス以外で低額で訪問サービスを実施。		○					
ゴミ出しサービス	安否確認を兼ねて自宅を訪問し、ゴミの廃棄のお手伝いを行う。	○	○	○				
ふれあいの集い	要介護認定の自立者を対象に、介護予防を目的として低額でデイサービス実施	○						
認知症サポーター養成研修	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、淡路市地域包括支援センターの委託(無料)を受けて受講者にも無料で実施。	○		○				
配食サービス	高齢者向けの弁当を低額で自宅に配達するサービスで、対象は、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯とする。	○	○	○				
一時預かり保育	児童を一時的に預かることで、安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図ることを目的とする。							○
デイサービス(夕食サービス)	夕食を食されてから帰宅したいご利用者の希望に応じて、食費のみ頂いて送迎は無料で行うサービス。		○	○				
プルタブ回収	空き缶散乱公害がなくなり、回収したプルタブが一定量蓄積されると車椅子が製造できるという利点を活かし、福祉団体への寄贈を目的に、三洋電気洲本工場OB団体「洋友会」を通じてボランティア活動を実施。	○	○	○	○	○	○	○
使用済み切手収集	使用済み切手の収集を行い、団体を通じてアジアやアフリカの保健医療事情の向上のため役立てる事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○
エコキャップ運動	ペットボトルのキャップの収集を行い、社会福祉協議会、NPO法人を通じて発展途上国の医療支援に貢献する事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○
宅配サービス	事業所から業者に商品を集計した書類をファックスし、1～2日後にご利用者自宅に届くというシステム。重たい品物、大きな品物でも購入することができ、ご利用者の買い物難民救済に役立てる。	○	○	○				
ケアローソン(介護相談窓口)	高齢化や健康意識の高まりを受け、社会の変化に対応した次世代コンビニモデルの構築に取り組む。通常のコンビニ機能に加え、ケアマネジャーなどの相談員が駐在する介護相談窓口や、地域の方の交流の場として活用できるサロンスペースも店内に併設している。	○	○	○				
ギャラリー展示	地域の方等の作品を展示する。	○	○	○				
日本財団自動販売機設置	飲料1本につき10円を社会貢献プロジェクトに寄付する。	○	○	○				

寄っていかんか千鳥	ご利用者が作った作品を、誰かが買ってくれることで、ご利用者に自身の価値・存在を感じ、認めてもらうために実施。また、その中で世代間交流や地域とのつながりを持ち、地域の方の集いの場所にする。	○						
中学校出前授業	介護の魅力、必要性、社会情勢等、介護の現場を知ってもらう目的として実施。	○	○	○				
高校福祉授業	福祉についての理解を深める為に、「認知症サポーター養成講座」等を実施。	○						

8.情報公表サービス受審

■ サービス評価(淡路市提出日)

しおさい しおさいデイ	2023年4月7日
ぬくもり	次年度に延期
小規模ほほえみ	2023年2月17日

■ 指導監査

ぬくもり	2023年2月21日
------	------------

9. 総括

新型コロナウイルスの感染が確認され、4年目を迎えましたが、いまだに収束の見通せない状況にあり、令和4年度はコロナ禍に加え、ロシアによるウクライナ侵攻や円高の続伸等によるエネルギー価格・物価高騰が追い打ちとなり、令和4年度決算はかなり厳しい状況となりました。

コロナ禍における介護人材確保の状況も厳しく、特に新卒の反応が悪くなるなど応募者の就職活動停滞が実感されています。新型コロナウイルス感染症による離職ははませんが、それだけエッセンシャルワーカーとしての意識を持ち日々の業務にあたっており、こうした介護従事者への専門性を評価する観点からも、法人のホームページへのアクセスの強化を図り、ICTを活用した求人活動などの強化を継続していきます。

介護現場において生産性の向上が喫緊の課題となっており、各事業所においても介護業務の負担を軽減するため、介護ロボットや見守り機器の導入、インカムの活用など介護のDX化が進みつつあります。これら介護ロボット・ICTの有効活用を更に図っていきます。

また、2022年度は旧津名図書館を活用し、LEVNを拠点とし小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもり・千鳥会在宅介護支援センター(居宅介護支援事業所)の移転、地域型保育所を新設し、ワンストップサービスを目指した総合相談窓口を設置し、サービスの質を確保しつつ効率的なサービスを目指し、高齢者・保育・障害事業を開設しました。

令和5年度中の策定が義務化されている感染症や災害発生時の業務改善にむけた(BCP計画)を策定し、各事業所が訓練や研修会等を定期的実施し、より実効性の高いBCP計画を策定し、利用者に必要なサービスを安定的・継続的に提供される体制の構築を進めて参りました。

2022年度 千鳥会ゴールド事業報告書

1. 2022年度総括と今後の展望

(1) 総括

2022年度は新型コロナウイルスによる集団感染が8.12月に発生し、ショートの受け入れを一時停止する等、利用を控えて頂く事となりました。また、発熱等の体調不良時は感染対策として早期に協力病院に受診することが多く、そのまま入院になる人が多く、稼働率の維持・向上に努める事が出来ず、収益的には厳しい2022年度となりました。

又、新型コロナウイルス感染対策として、屋外等の行事は実施することが出来なく、屋内での実施が多く、ボランティアの受け入れ中止や家族との面会もオンラインとなり、地域等との繋がりも行動制限を継続してきました。

行動制限された生活環境の中で、楽しみのひとつである、行事食(ハレの日の食事)を委託業者の調理と協力して提供した結果、ご利用者から喜びの声を頂き、職員のモチベーションアップに繋がりました。また、エネルギー価格・物価高騰の煽りを受け、食材料費についても、全商品価格改定となりましたが、献立と調理工夫し、質を保ち安心、安全なサービス提供となるよう努め、SNSを活用しながら施設の情報を発信しながら、ご家族や地域の方にも閲覧して頂けるよう取り組んで参りました。

(2) 来年度への課題及び展望

感染法上の位置付けが、5月8日より季節性のインフルエンザと同じ5類に引き下げられ、コロナ対策を取り巻く環境が大きく変化し、重症化リスクが高い高齢者を守るためにどう対応すべきかの体制づくりが求められます。

①現在もコロナ禍で面会・行事等の制限がある中で、ご利用者は日々施設内で生活を送られていますので、感染対策を講じながらも面会・行事等を実施し、楽しみ・喜びある日々を送ってもらえるような取組みを進めていきたい。

又、ご家族・地域の方も気軽に施設に来れる環境でないので、リアルタイムに情報発信し施設の様子・取組みを閲覧してもらう取組みを積極的に行っていく。

②今後高齢者人口が増加し続け、75歳以上人口が最大となる2030年は淡路市にとって介護問題となる年となりそうです。その後、高齢者人口は減少していきますが、2040年には高齢者人口と生産性人口(20~64歳)が同数となり、1人の現役世代が1人の高齢者を支えなくなります。

そのような事からも、人材不足は加速していきますので、事業所においても人材に頼るのではなくITロボットにも頼り、人材不足を解消していく取組みを進めていきます。

③安定した事業運営を進めて行く中でも、稼働率の向上・経費削減が必須となります。

この3年間はコロナ禍で利用控えなどで稼働率も思うような数字となっていません。

そんな中で、食材料費・光熱費等の物価高騰があり、事業所としても厳しい状況でもあり、各部署で経費削減など具体的な数値目標を設定し取組み・見直しを進めていきます。

④今後起こりうる想定される大災害に備えてのBCP計画の策定の完成させます。災害時、あるいは平時において、職員のやるべきことが明確となり、定める目標に向かって責任を持った取組みの実践と発揮するスキルの向上につながると考えます。

以上を重点的に2023年度は取り組んでいきたいと考えています。

2022年度 津名デイサービスセンター事業報告書

1. 2022年度総括と今後の展望

(1) 総括

ご利用者、ご家族、地域にとって必要なサービスとなれるよう、選ばれるデイサービスとなるよう取り組んだ。取組みは「デイ便り、手帳、SNS等」を活用し積極的に外部への発信を行い、デイサービスの良さが少しずつ伝わっており、1年間で新規48人の利用者(月平均4人)を獲得できた。年間利用者数(稼働率)については、2021年度より少し減少したが要因としては新型コロナウイルスの流行に伴い、デイサービスでの感染者発生がある。(保健所と協議し営業を中止したことがあった。)また同居家族、ご利用者が感染者、濃厚接触者になりデイの利用を自粛して頂いたところが稼働率に影響した。感染予防を継続しながら、個別レク、小集団活動、リハレク、機能訓練などの充実を図ることができ、顧客満足向上に繋げることができた。

(2) 来年度への課題及び展望

引き続き、選ばれる事業所作りを事業所全体で取り組んでいき、稼働率向上に繋げたい。ご利用者の自立支援を目標に、生活の質・ADL・生活機能の向上、社会参加を可能とする活動を積極的に取り組んでいきたい。

2022年度 千鳥会在宅介護支援センター(居宅介護支援事業所)事業報告書

1. 2022年度総括と今後の展望

(1) 総括

ケアプラン作成件数は、入院、長期入所などが多く減少傾向でした。原因としては、新規依頼の件数より終了するケアプランが多くなったことが考えられる。新規の依頼件数は、昨年度と同じぐらいの件数だった。

(2) 来年度への課題及び展望

新規以来の増加を目指し、また終了件数を減らすように事業所全体で努力しケアプラン件数増加に繋げたい。

2022年度 千鳥会在宅介護支援センター事業報告書

1. 2022年度総括と今後の展望

(1) 総括

今年度もコロナ禍ということもあり感染状況によっては活動しにくい1年であったため訪問もしにくい状況となり適正な収益を確保することができなかった。

その中でも少しずつ活動できることを模索しながら地域づくりを行った。具体的には地域のニーズを把握し、本人の望む生きがい作りを行うため、ケア会議で事例検討し、11月19日市民フォーラムで地域の方の作品展示に繋ぐことができた。

また、積極的に地域での会議等に参加し千鳥会の取り組みや魅力について情報発信を行った。

コロナ禍で依頼は少なかったが、小学校、JA 淡路日の出で認知症サポーター養成講座を行った。

*淡路市との委託契約の内容を基に取り組みを行う。

(2) 来年度への課題及び展望

来年度も引き続き、淡路市との委託契約の内容を基に、訪問活動を中心に行い、その中で地域ニーズを発掘し地域ケア会議で参加各専門職と協議し、地域づくりができるようにしたい。また来年度より、地域ケア会議が各在宅介護支援センター主体で行われるため、会議が円滑、スムーズかつ、実りのある会議になるように努め、認知症サポーター養成講座も積極的に行い、福祉の魅力や理解、千鳥会のPRを行う。

2022年度 高齢者住宅等安心確保事業報告書

1. 2022年度総括と今後の展望

(1) 総括

住宅に定期的な訪問を週1回行う。独居者で体調不良等の訴え時には、水分補給を促し、受診を勧め、湿布を貼るなどで不安を取り除けるように臨機応変に対応した。全体的に単身者が多く、その中で介護認定が必要な方には、家族と連携し介護認定の申請手続きを行い各サービスに繋ぐなど、他機関と情報共有や連携を行う。また介護サービスが必要とする時も、行政と連携し住み慣れた自宅で生活が続けられるように支援した。

住宅機器の不備に関しては、その都度県や市の窓口に対応した。緊急通報コールについては、誤作動による通報、原因不明の通報が多い。誤作動による通報が多い方には原因を考え対応した。また独居者が腰痛等で動きにくく、12時間以内の移動や水不使用でセンサーが反応せず、緊急通報に繋がるケースがあり親族達に協力を得ながら対応した。

訪問、電話等での情報収集、状況把握の中で、抱えている問題への気づきや対応、対策が今まで以上に求められてきている。今後も入居者宅への定期的な訪問で安否確認を行い、さまざまな問題について関係機関と連携し、日々の生活に不安が強い方には、在介、地域包括支援センター、社協、居宅介護支援事業所等と情報を共有し連携を行い、自立した日常生活が送れるように努めたい。

(2) 来年度への課題及び展望

淡路市の委託契約に基づき適切に対応をする。情報不足により対応が後手になるケースもあり、訪問、電話等での情報収集、状況把握、問題への気づきを行い、早めに対応できるようにしたい。

入居時に緊急連絡先のない入居者の対応を、見守りでどうしたら聞き出せるか行政や関係機関と、情報共有しながら安心した日常生活が送れるように努めたい。

2022年度 特別養護老人ホームゆうらぎ事業報告書

1. 総括

1-1 コロナウイルス感染予防に留意しながら、地域を巻き込んだ記念行事を展開する。

→2022年度につきましては、感染対策に注力し面会制限も継続した為、記念行事の実施は見合わせています。

1-2 内部、外部の研修について感染症の状況をみながら現地参加、リモート参加の検討を行い積極的な研修参加によりコロナ過においても学びの機会を失わないよう取り組みを行う。

→内部の研修については感染予防を優先し個人ワークが中心となるが施設内勉強会を定期的実施することができています。外部研修についてはリモートが中心でしたが積極的に参加することができています。

1-3 感染症の予防対策を実施し、施設内での感染症蔓延を防止する。また定期的にマニュアルを見直し感染症が発生した際にも迅速に統一した対策が講じられるようにしていく。

→状況により定義が変わる社会全体のコロナ対応に合わせ予防対策やマニュアルの調整を行うことができています。ただ想定を超えるコロナ感染拡大により施設内でクラスターが発生する事態となりました。幸いにも早期のゾーニング等の感染拡大対応によりコロナが原因による死亡者を出すことなく終息に至っています。

1-4 高齢者虐待、身体拘束、ハラスメントの研修を年間教育計画に盛り込み定期的な教育訓練により各職員への倫理意識の向上を目指す。

→上記の研修については年2回開催し倫理向上に繋げることができました。

1-5 予防処置立案を会議等にて継続周知し各職員の予防の意識を高めることで重大アクシデント0件を目指す。

→重大アクシデントについて3件発生し、対応が後手になる部分もありましたが予防処置の立案も年度合計55件と各職員の予防に対する意識は高くなっていると思います。

2-1 LINE等、社会全体で普及しているアプリケーションを活用しリモートによる交促進に取り組む。

→コロナ過により長期間面会に来られない家族様への取り組みについて、LINEを活用したりリモート面会の実施の他、11月には窓越し面会を一ヶ月限定ではありますが実施し多くの家族様にご好評頂いています。

2-3 利用者のニーズを早く察知し、事業所の質を高め、緊急・困難事例にも迅速に対応していけるようにする。

→地域の居宅介護支援事業所との意見交換を密に行い、緊急ショート等も柔軟に受け入れすることができています。

3-1 行事实施後にLINE等のSNSにて内外に情報発信しブランド力強化を図る。

→LINEを活用したSNSの発信を定期的に行うことができています。

5-1 内部コミュニケーションを充実させ、各自目標をしっかりと見据え、模範となる職員の育成を図る。

→各自品質目標を毎月作成し目標を持ちながら業務を実施することができています。

7-1 災害BCP計画についてゆうらぎ、北淡荘で協議を繰り返し施設内におけるBCP計画の完成を目指す。

→災害BCP計画については雛形となる物が完成し定期的訓練を実施することができています。

8-1 購入物品のコストオープン化を行い全職員がコストに対する意識を持てるよう取り組み不要な支出を避ける。

→戦争の長期化により物品の値上がり避けられない状況ではありましたが、仕入れ業者の見直しや必要不要の見直しを行い不要な出費を避けるよう対応しています。

8-2 ショートステイの質を向上させ、選ばれることでショートステイ稼働率100%以上(空床利用含む)を目指す。

→2022年4月の総稼働率85%→12月94.4%と少しずつですが向上しています。ただ、12月末より再び施設内においてコロナ感染によるクラスターが発生し、受け入れ中止を余儀なくされ利用者様の感染対応等に注力することになり、1月～3月は大きく稼働率を落としています。

来年度への課題及び展望

ゆうらぎでは、転倒等の事故分析がスムーズに行えるように独自の分析・集計表を活用しています。

2022年度について、要介護状態の重度化による日常生活動作の低下により、骨折や医療機関への受診が必要な重大事故が3件発生しています。事故についてはリスクマネジメントを行い同じ事故を繰り返さないように、継続し事故防止に力を入れていきたいと思えます。

2022年度は、コロナ過により長期間面会に来られない家族様への取り組みについて、LINEを活用したりリモート面会の実施の他、11月には窓越し面会を一ヶ月限定ではありますが実施し多くの家族様にご好評頂いています。ただコロナ過の長期化により対面による面会実施には至っておらず、家族様にはご不便をかけていることも大きな課題です。前例のない感染対応長期化ではありますが、今後も感染リスクを勘案しながら面会方法の模索に取り組むたいと思えます。

利用稼働率について昨年2月、3月の利用者受け入れ中止により厳しい年度初めとなりましたが、多くの利用者様、家族様、居宅介護支援事業者様のご理解やご協力により、2022年4月の総稼働率85%→12月94.4%と少しずつですが向上しています。ただ、12月末より再び施設内においてコロナ感染によるクラスターが発生し、受け入れ中止を余儀なくされ利用者様の感染対応等に注力することになり、1月～3月は大きく稼働率を落としています。

来年度についてもコロナウイルス等感染症の動向により施設運営も大きく左右される可能性が高いですが、利用頂いている利用者様や家族様への感謝を忘れず、高品質なサービスを提供できるようゆうらぎ全体で取り組みたいと思えます。実績については、入所申し込み待機者が30名程と過去最低の入所申し込み状況ではありますが、地域の居宅介護支援事業所との連絡調整を密に行い、地域のニーズに対し迅速に対応することにより稼働率の安定、向上に繋げることができるよう取り組みを継続したいと思えます。また、内部、外部の研修会への積極的参加を行い職員のスキルアップによりサービスの

向上に繋げることができるよう取り組みたいと思います。

2022年度 ゆうらぎデイサービスセンター事業報告書

1. 総括

- 1-1. コロナ禍が終息した暁には、法人開設 30 年、施設開設 15 年でもあり、記念行事を盛大に開催する。
→コロナ禍が終息しなかったため、記念行事の開催を見送る。
- 1-3. 感染症予防と、事故防止に取り組み、ご利用者が安全、安心して利用できる環境を作る。
→ご利用者、職員にコロナ感染者が発生するが、大きな事故の発生は、防止できました。
- 1-4. オンライン研修を含め、職員教育を充実させ、虐待、身体拘束、ハラスメントゼロの環境を作る。
→職員による勉強会の実施により、虐待、身体拘束、ハラスメントの発生も無く、
- 2-1. オンラインを活用し、他の事業所、地域との交流を図り、コロナ禍での行事充実により、利用者満足度を高める。
→行事、レクリエーション、日常のサービスにより、ご利用者から、1年間を通し、142 件の喜びの声を頂きました。
- 3-1. ご利用者が楽しめる行事を企画し、SNS で情報を発信する事で、選ばれる施設となる。
→コロナ禍で、ご利用者が楽しめる行事を企画し、SNSで、年間42件の情報発信を行う事が出来ました。
- 6-1. 就業規則、法令の遵守を職員に周知し、安全、安心して働ける環境を作る。
→職員間にコロナの感染が発生しましたが、交通事故も無く、就業規則、法令の遵守の遂行が図れました。
- 8-2. 稼働率90%以上を目指す事と、加算の取得により、収益の向上を図る。
→本年度稼働率は 70.2%、延べ利用者数は 10,837 人となりました。前年度の年間実績から比べて延べ利用者数は、マイナス 306 名となっており、新たにLIFE加算の取得をしましたが、大幅な減収となりました

来年度への課題及び展望

2022年度も、感染対策の徹底に努めましたが、さらに変異し、感染力を増した新型コロナウイルスに翻弄された一年でした。当施設でも、ご利用者、職員に感染が発生し、デイサービスの受け入れを中止した日が2日間、特定利用を中止した日が半月間あり、また、コロナ禍の影響なのか、新規の利用者も思うように増えなかったのと、感染を心配して利用を控える方、体調が悪化して入院され、その後、特養等に入所される方も居られ、日々の稼働率90%以上を目標としたが、70%程となり、収益面でも大きく減収となりました。そのような中で、感染症に注意しながらご利用者が楽しめる行事を企画し、多くの喜びの声を頂き、利用者満足度の向上に努めると共に、行事、レクリエーションの情報をSNSにて毎月3件以上発信し、選ばれる施設となるよう取り組みました。研修面では、コロナ禍のため、外部での研修参加を控え、施設内にてオンライン研修や、職員内での勉強会を毎月開催し、知識向上に努めました。その結果、感染症の発生はありましたが、安全、安心して、ご利用者がサービスを受け、職員が働ける環境が作れました。

来年度に向けての一番大きな課題として稼働率の向上が挙げられ、そのためには、安全、安心して、楽しく利用出来る環境を作り、選ばれる施設になる事だと思います。感染対策の徹底で集団感染を防止し、アクシデントゼロの環境を作り、ご利用者が楽しめる、行事、レクリエーションを企画し、利用満足度の向上を図ります。コロナ禍で、外部研修の参加も控えていたため、感染状況を踏まえ、外部研修にも積極的に参加し、職員のスキルアップにも努めます。また、物価の高騰で、様々な資材の値段も上がっているため、無駄を省き、経費削減にも取り組みます。そして、落ち込んでいた稼働率を向上させ、安定した運営が出来るようにしていきたいと思っています。

2022年度 ゆうらぎ訪問介護ステーション事業報告書

1. 総括

- 1-2. 利用者ひとりひとりのサービスを見直す。サービスの質に向けて、職場内研修およびオンラインでの研修に積極的に参加し自己学習にも取り組む。
→研修や勉強会を行った。利用者の計画書の中でのサービス内容をどのように行うのがいいか、現状がいいのか変更がいいのか話し合い担当者会議やモニタリングでサービス内容を5件見直すことが出来ました。
- 1-3. 1ケアごとの手洗い、訪問前後の手洗い及び、手指消毒の徹底、特に身体介護時のゴーグル、マスク、手袋着用で感染ゼロを目指します。
→マスク着用の中で、利用者や職員の熱中症にも気を付けようと水分補給にも声掛けあいました。訪問後に感染が発生することも度々ありドキドキでしたが訪問介護員に感染する事なくまた、持ち運ぶこともなく過ごせたことはありがたく何よりでした。これからも継続していきます。
- 1-4. 高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等の学習をし、訪問介護員としての倫理観を身につけ、意識の向上を目指す。
→職業倫理等に関しては勉強会を行い、納得する事が多かったです。特に言葉使い等の接遇の勉強会を行いました。
- 5-1. アンガーマネジメントを引き続き学び、職場内環境を整える
→研修の成果もあり、何かあれば 6 秒待つということに意識付いてきました。が、自然と身につくにはまだまだこれからと考

えます。

来年度への課題及び展望

利用者に満足されるようサービス内容の充実・見直し、信頼関係を築くことに頑張ってきました。心の不安時には「やはり来てほしい、訪問介護員の顔を見ると安心する、やっぱりあなたに来てもらって良かった」と、「悩んだ時に相談してよかった、また来てね」と声かけてくれる。家族様よりどうしたらいいのか迷ったときに「相談してよかった、いいアドバイスを頂けた、安心しました」と聞くようになりました。この信頼関係は直ぐにできるものでもないし、日にちをかけることでできるものでもないですが、われわれ訪問介護員にとって何よりありがたいお言葉でした。訪問介護員の日々の積み重ねと思いたいです。一方で、家族様より訪問介護員によってサービス内容が違うとのご指摘がありこれには随分悩みました。どこから見ているのだろうと悩むこともありましたが、時間に追われたり、同じサービスでも時間配分が違っていたりで生じてしまうこともあり、事業所内で話し合いを重ね取り組みました。本当にありがたいご意見でさらなる訪問介護員のサービス見直し、技術の統一に力が入り、とても勉強になりました。

また、どの事業所でも同じですが、いまだに落ち着かない感染対策にも気を使ってきました。身体介護はもちろん、お話をしようとして一生懸命訪問介護員に寄り添っていると顔が隣り合わせになるときもあり、ドキドキしましたが、おかげさまで感染する事や、われわれ訪問介護員が運ぶこともなく過ごすことが出来たのもありがたいし感謝しています。

悩んでいた訪問介護員一人ひとりのアンガーマネジメントを学び、少しでも実践することで気持ちのコントロールが少しできるようになってきたのかなと思っています。何度も勉強会を重ねました。サービス中や訪問介護員同士の会話のなかで「あっそうだ」と、ふと気づくことも多かったです。いまだに、実践はなかなか時間がかかるようです。

利用者数は、施設に入居する方や入院が長引く方が多いなかで終了する方もありまた、新規利用者も少しずつ増えました。新規利用者となかなか関係性が築けないまま終了になることもありました。訪問介護員が少ない中で新規の依頼もありありがたいことでしたが生憎お断りすることも多かったです。

来年度は、感染対策は引き続き気を緩めることなく継続してまいります。5類になることでどのように取り組むべきか、他の事業所はどうか、淡路市内訪問介護ステーションではどうしていくかを確認しながら進めていこうと考えています。

BCP(事業継続計画)については、何かをもう一度学びなおして事業所として災害発生時にはどう対応していく事がいいのか、どうしたらいいのか取り組んでいけたらと考えています。訪問介護員の接遇やアンガーマネジメント及び倫理を身につけ自身の満足度を上げ利用者に喜んでいただけるよう実施していきます。そうして、しばらく発行していなかった事業所の情報発信(ヘルパーだより)にも取り組み実現出来たらと思っています。

2022 年度 養護老人ホーム北淡荘事業報告書

1. 総括

1-1. 法人開設 30 年、施設開設 15 年の記念行事となるイベントを開催する。

→コロナ禍であった為、記念行事は中止となる。

1-2. 内部研修の充実、外部研修への積極的な参加を行い、介護技術向上を目指し、ケアの統一を図る。

→支援員内で接遇を含めた勉強会を実施し、介護技術向上に努めた。

1-3. 感染対策・感染予防の徹底、継続し、集団感染ゼロを目指す。

→年間を通して、コロナウイルス・インフルエンザの感染者出さずに、過ごすことが出来た。

1-4. 教育訓練の充実。責任や役割を明確にし、常に倫理を意識して業務に取り組むよう教育・指導を実施する。

→ハラスメントの勉強会を実施。倫理意識を向上に努めた。

2-1. 事業所間交流、地域交流、行事等の充実を図るため、オンラインを活用しコロナ禍でも楽しめる行事を実施し、利用者満足度を高める。

→オンラインでの行事交流は難しく実施する事が出来なかった。オンラインを利用した面会を実施し、利用者・家族の満足度を高める事に活用した。

4-1. 役職者としてのマネジメント能力の向上を目指し、主任・副主任の資質向上・育成教育に取り組む。

→積極的にコミュニケーションを取り、相互理解を深める事を大事にした。主任に育成・指導等のアドバイスを送る事により、一般職員の能力底上げにも繋がったと思う。

5-1. 職場内環境の向上を行い、内部コミュニケーションの活性化を図り、職員の定着率の向上を目指す。

→職員同士の意見を共有し、関係性を深める事を実践した。互いを理解する事により、建設的な意見を言い合える関係性を築けた。

7-1. 災害 BCP 計画を完成させる。

→災害 BCP 計画完成。定期的に訓練を実施する。

8-2. 養護老人ホームの月初充足率 100%(168 名)、特定利用者の月初充足率 97%(58 名)を目指し、安定した収支状況を作る。

→昨年度末に低下した稼働率を向上させる事が難しく停滞する形となってしまった。2022 年度平均 85.1%

来年度への課題及び展望

北淡荘では、前年度の反省を生かし、介護技術の向上、コロナ禍における行事の充実を目指し取り組んできました。生活支援員では、接遇を含めた介護技術向上を目指し、支援員会議内で勉強会を実施し、職員の意識改革をはじめ、介護職として必要なスキルを習得でき、効果があったと思います。

2022年度もコロナ禍にあり、北淡荘ご利用者にとって、行動の制限・面会自粛と自由に行動が出来ず、施設内で過ごす時間が多く、閉塞感を感じつつ生活をされていたと思います。

行事の内容を見直し、施設で過ごす楽しさを見出せるように、また日頃の閉塞感から脱却できるよう毎月の行事・日課に力を入れました。

北淡荘での稼働率に関しては、昨年度末に起きた北淡荘での大規模クラスターにより、低下した稼働率を上げる事が難しく、停滞する形となってしまいました。2022年度平均 85.1%。

新規入所依頼も昨年度に比べ大幅減となっています。その背景には、措置担当者の変更や、行政による措置控えが顕著に現れてきているのだと思います。今後も厳しい状況が続く事が予想されますが、継続して新規入所者を確保しつつ稼働率の向上を目指していききたいと思います。

来年度の最大の目標は、稼働率の向上です。2022年に入って以降、神戸市からの新規入所依頼が激減し、措置控えが顕著に現れてきました。養護老人ホームが高齢者のセーフティーネットとして役割を果たしている事を発信しなければならないと思います。

来年度は低下し停滞している稼働率を向上させ、空床を長期化させず取り組んでいきたいと思っています。

新型コロナウイルスが5月8日から5類へと引き下げされると共に、感染対策を継続させつつ規制緩和を行い、ご利用者の方たちに施設生活を満足して送って頂けるようサービスを提供していきたいと思っています。

2022年度 地域密着型特別養護老人ホームほほえみ事業報告書

1. 総括

開設から11年が経ち、2022年度は

- *新型コロナウイルス対策の継続と感染状況を踏まえた適切な運営を行う。
 - *大規模災害に備えたBCP(事業継続計画)の策定と体制整備を行う。
 - *介護ロボットやICTを導入し、CS・ESの向上を図る。
 - *安定的な収入の確保を図る。
- を大きな目標として進めてきた。

『新型コロナウイルス対策の継続と感染状況を踏まえた適切な運営を行う』に関しては、兵庫県内や淡路島内、地域の感染状況や動向を把握し、その都度最善の判断を行いながらご利用者へのサービスが安心、安全な形で提供できるように努め、新型コロナウイルス感染症のリスクがある中においてもご利用者が生きがいや楽しみを持って過ごせるよう日々のご利用者との関わりや行事や取り組みを1年間通して実施、開催することが出来た。また、ご家族との面会(オンライン含む)についても出来る限り実施し、関わりを持てる機会を提供することが出来た。

ただ、新型コロナウイルス感染症の流行期間等においては、施設の感染対策として面会制限を行う中でご利用者とご家族、また施設職員とご家族が関わる機会が減少したことで信頼関係や情報共有が希薄になることを予防するために施設からの情報提供として、行事や取り組みの様子を「LINE」や「ホームページ」に掲載し、ご利用者の日常や行事等に参加しているご利用者の様子を写真に撮り、毎月ご家族に送付している。

『介護ロボットやICTを導入し、CS・ESの向上を図る』に関しては、インカムシステムを導入し、施設内のあらゆる場所でリアルタイムでの連携や情報共有が行え、ご利用者対応の際には利用者の傍を離れずに応援や協力も要請でき、事故防止や早期発見等にも繋がっている。

『安定的な収入の確保を図る』については、長期入居者の入院や入退居が継続的にあり稼働が安定しなかったが、長期入居者の入院や入退居時等の空床がある場合には、短期入所者の空床利用に繋げた。ただ、短期入所利用者のコロナ感染拡大等の影響により利用控えや中止、また体調不良等により入院も目立ち、長期入居者の入院も重なったことで稼働率の大幅な回復、改善までには至らなかった。

2022年度に関しては、2021年度と同様に新型コロナウイルス感染症のリスクと隣り合わせの1年であったが、その中でもご利用者が施設での生活が安心、安全を確保した上で楽しみや生きがいを感じ過ごせるよう様々なサービスの提供や業務改善、新しい取り組みへのチャレンジを行った1年となった。

来年度への課題及び展望

今年度においても1年を通して、新型コロナウイルス感染症への感染予防、対策に追われながらの施設運営となったが、これまでの経験や知識を活かしながら部署間連携にて最善を尽くした結果、集団感染等なく利用者、職員共に無事に年度末を迎えることができた。ただ、今後も新型コロナウイルス感染症をはじめ様々な感染症等のリスクや流行も想定されるため、BCPを基に対策の強化、継続的改善を図っていききたい。

その中でここ数年、新型コロナウイルス感染症の流行により制限していた家族との面会や外出支援、地域との交流等を来

年度には再開し充実を図りながら、より良いサービスの提供に努めたい。また、来年度には見守りセンサー（ICT）の導入を行い、利用者への支援の強化と安心、安全なサービスの提供図り、事故防止や早期発見に繋がられるように人と介護ロボット（ICT）の融合を実現させる。

施設全体の課題としては、原材料価格の高騰やロシアによるウクライナ侵攻、円安などによる物価上昇であらゆるものの価格が高騰し支出が増加し続けているため、日々の業務の中での節電や節約を継続しながら、消耗品等の購入物品をはじめ、水道光熱費や食材料費などの見直しや代替品への変更など経費削減への取り組みも強化させていく。

来年度もコンプライアンスの徹底と高品質のサービスを提供し利用者や家族地域、関係機関から信頼と信用を得られる施設運営を目指す。

2022 年度 千鳥会デイサービスセンターほほえみ事業報告書

1. 総括

2022 年度は、職員異動があり新しい職員体制の中、今までとは違った思考で「with コロナ・安全で楽しいデイサービス」の、あり方を検討し実践した 1 年でした。

運営面では、昨年 7 月～9 月に新型コロナウイルスの煽りを受け稼働率が低下しましたが、10 月からは、新規ご利用者や追加希望者の増加に伴い 1 日平均が 27.5 名となり、昨年度より 1 日平均利用者数が 1 名の増加した事など、稼働率も 80% を超えるようになり安定した運営が出来るようになりました。また、介護職員等ベースUP等支援加算や科学的介護推進加算の取得により、当初の目標値を達成できるようになりました。介護現場としても新たな環境が求められるようになり、安全かつ安心してご利用していただける環境の中で、デイサービスとしての取り組みの展開が今年度の大きな課題となりました。そのこと踏まえ、①感染予防対策 ②アクティビティの充実 ③情報の発信、この 3 点に重点を置き実施した結果、ご利用者やご家族、ケアマネージャーの方々にご理解とご賛同いただき多くの喜びの声を聞くことができました。

①来所前の検温や視診、マスク着用・手洗い・三密の回避をはじめ、マスクを外す浴室にも空気洗浄機を設置し、食事中も換気を徹底しました。

②月行事や外出行事を実施。

濃厚接触者の定義をもとに、安全対策を強化しご利用者協力の元「4 月 花見・5 月 BBQ・6 月 紫陽花見学・7 月 外食・8 月 お楽しみ会・9 月 敬老会・10 月 運動会・11 月紅葉見学・12 月クリスマス会・1 月 お正月あそび・2 月 節分・3 月 雛祭り」等々、全員参加で月行事を楽しみ、外食行事の折は、お店の協力を得て貸し切りのブースを設けていただきました。日々の活動では、「家では歩けないから」と、積極的に参加されている“歩こう会”年々参加者が増え、個々に目標を持って意欲的に頑張っています。また、皆様の頑張りが読売新聞でも紹介されました。2022 年度は、リモート等での行事計画が進まず、他施設と連携が取れないままに活動範囲が施設内となりましたが、次年度は多面に渡り資源を活用し、他施設等の繋がりを活動の中に入れていきたいと思っています。

③タイムライン・会報誌等に定期的に発信しデイサービスの様子や状況をお伝えしています。

これにより、「普段見られない様子がよくわかる」と、評価を頂き、今後の活動にも繋がっています。サービス面では、無資格者の職員が「認知症介護基礎研修」を受講したことで、職員全員が一丸となり、介護技術やケアの向上と、介護福祉士を目指し前向きに取り組んでいます。又、職員環境につきましても、お互いが切磋琢磨し、協力しながら何事も相談し話し合える職場環境作りを目指しています。

来年度への課題及び展望

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、外部に向けての取り組みが中断してしまった近年だが、2023 年度は、他施設との交流を検討しながら地域交流も取り入れ開かれたデイサービスの展開と実施を目指す。又、デイサービスの内容の充実を図り、ご利用者やご家族に選ばれるデイサービスを構築し安定した運営を図る。

感染症や災害に対しデイサービスとしてのBCPの強化や、非常時に備えた取り組みをレクリエーション等に取り入れご利用者と共々緊急時に備える。

2022 年度 小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ事業報告書

1. 総括

2022 年度は体制・加算の変更はなく、運営面では月平均登録利用者数は 27 名程度で、昨年度と大きく変わらず、当初予算・目標値を達成することが出来ました。登録終了となったご利用者が少なかったこともあり、新規登録も 3 名と昨年度より少なくなりました。

ご利用者支援の面では、突発的な対応や毎日の訪問等、小規模多機能の柔軟性を活用することにより、在宅生活の継続とご利用者・ご家族にニーズに対応出来るよう継続して取り組んできました。アクシデントで、介助中の骨折事故が発生しましたが、会議体で事故状況の確認を行い、対策を共有して再発防止に努めています。ご利用者の状態変化に伴い、一時的に泊りベッドの空きがなくなる時期もありましたが、特養との事業所内連携により、施設入居へスムーズに繋ぐことが出来ま

した。また、泊りベッドの空きがある時には、外部の緊急ショートを受け入れを行い、事業所機能の活用に取り組んでいます。

今年度も新型コロナウイルス感染症への対策は継続する中で、ご利用者、職員の中で感染者が出ることもありました。事業所内での感染拡大は防ぐことが出来ています。ただ、年始に事業所内で感染性胃腸炎症状が広がってしまい、新型コロナウイルスだけでなく、他の感染症についても、対策や初期対応の徹底を周知していきたいと思えます。感染対策により、外出行事は実施しにくい状況が続いていますが、ウッドデッキを活用してBBQや屋台等、ご利用者の皆様に季節を感じながら楽しく過ごしていただく事が出来ました。

職場環境の面では、職員入退職がそれぞれ1名あり、昨年度末と人数は変わりませんが、療養のため休職する職員が出たこともあり、人員不足の状況が続いています。新入職員へのフォローと人員不足への対応の面で、各職員の協力、連携によりご利用者への支援に支障が出ないよう対応しています。また、業務の効率化を図り、ICT導入は検討を継続しています。職員研修については、外部研修への参加は出来ていませんが、事業所内での勉強会に加え、部署内での勉強会では、介護職員として、倫理観の向上に取り組んでいます。

来年度への課題及び展望

来年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、一泊旅行や地域行事への参加の検討等、外出行事の充実に取り組み、ご利用者の皆様と地域との繋がりも大切にしていきたいと考えています。また、職場環境の面では、適切な介助用具使用と介助方法による腰痛予防と、研修参加等で各職員のスキルアップを図りたいと思えます。引き続きご利用者・ご家族・地域のニーズに柔軟に対応出来るよう取り組み、安定した運営を継続していきたいと思えます。

2022年度 グループホームしおさい事業報告書

1. 総括

2022年度も全国的な新型コロナウイルス感染症の蔓延が続きなかの事業所運営となりました。オミクロン株第7波から第8波で驚異的な感染拡大により、すぐ近くまで身に迫る危険な感染予防とコロナ禍の長期化、社会の流れのもと利用者への日常の提供と両立が求められました。

結果としては、事業所内への感染の流入を防ぐことができました。兵庫県の定期スクリーニング検査など積極的に利用。嘱託医がいない事業所であっても、行政や医師会の協力得て、利用者職員とも速やかなワクチン接種へ対応ができました。また緩和時には、家族との面会交流の場も設けようと、事業所の規模を活かしベランダ面会や屋外でのベンチでの面会などの機会も提供できました。つきましては、利用者とその家族、職員その家族にも情報発信を行い、感染の波に合わせたメリハリの効いた対応により、感染予防とコロナ禍での日常のケアを両立できたものと自負をしています。2022年度は、新型コロナウイルス感染流入は防いだものの、利用者の高齢化、重度化に伴って、入院者もかつてないほど相次ぎました。特に上半期は、延べ入院者が定員の2割近くの入院者がありましたが、昨年度より開設したショートステイにより、認知症ケアを必要とする在宅利用者の受け入れを行いました。空床の80%以上をショートステイの利用が行え、稼働率の維持、安定した事業所運営に繋がりました。2021年度に認知症デイの再開とショートステイの開設によりサービスの拡大と大幅な収支改善を図り、2022年度は更なるサービスの質の向上と事業所の成長が図れた1年となりました。

来年度への課題及び展望

2023年度は新型コロナウイルスの感染法の分類新型コロナウイルスにより、withコロナより脱コロナへと向かいます。利用者と家族、事業所と地域との関係性を如何に再活性させるか事業所としての取り組みや姿勢が問われます。旧一宮町圏域におけるただ一つの認知症の専門的なサービスとして、施設サービス在宅サービスを一体的に提供し、地域の社会資源として更に機能していきます。また地域密着型のサービスとして、各関係機関との連携や地域住民との交流の機会も積極的に見出し、新たなグループホームしおさいのカたちを確立していきたいと考えています。

2022年度しおさいデイサービスセンター事業報告書

1. 総括

2022年度は、2021年度の職員体制の充実と兼務要件の緩和等もあり、稼働体制を整えて本格的なサービス提供が行いました。旧一宮町圏域におけるただ一つの認知症対応の専門的なサービスとして、地域の社会資源として機能するべく、圏域で土日営業の通所サービスがなく、その受け皿となるべく土日の営業を継続しています。入居者と生活を共にする共用型デイとして感染予防に十分留意しながら、1日3名の定員のなか、2名程度の利用者を受け入れることができました。今後も、夕食後までの時間延長、送迎など含み、ニーズに応じて柔軟な対応を行っています。

来年度への課題及び展望

認知症対応型通所サービスを提供する事により、旧一宮町圏域を中心とした認知症高齢者、家族への支援を行い、地域の資源としての役割と責務を果たしていきます。2023 年度も営業日は引き続き土日営業を行い、利用時間は9:50～17:00 までを中心としてサービスを実施。ニーズに応じて夕食後の送りなど柔軟な支援を継続していきます。利用者の自宅での生活維持と家族においては介護負担軽減を図ります。サービスを利用する事で、利用者の社会参加を実現し、家族を含めた在宅生活の継続を支援し、自宅での孤立化の防止に努めます。

2022 年度小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもり

1. 総括

2022 年度は、1 年を通して新型コロナウイルス感染症の影響が続き、ご利用者、家族、職員のコロナ感染者が出ましたが、感染拡大を防ぐために職員全体で情報共有、連携、協力して対応してきました。また、法人内の施設の協力や定期的な抗原検査も行うことで、大きな感染拡大もなく収束することができました。コロナ感染予防をしながら、事業所として、ご利用者に楽しんでいただけるよう、できる範囲でドライブ、屋内でのレクリエーション、行事活動に取り組みました。コロナ感染以外にも通年での食中毒予防と、ノロウイルス、インフルエンザ感染予防にも取り組んできました。また、職員資質向上を目的に毎月、教育訓練を継続し実施いたしました。

感染対策の取り組みだけでなく、災害時の対応として消防訓練では、日中、夜間想定訓練を実施し、また洪水時の要配慮者避難確保訓練も実施しております。

来年度への課題及び展望

2023 年 2 月から新しい拠点「LEVN」に移転し、職員全体で気持ちを新たに、ご利用者・家族や地域住民との信頼関係を構築し、当事業所を利用いただけるよう、そして利用者の確保につながるサービスの質の向上が、2023 年度の大きな目標です。

新型コロナウイルス感染症が5 月前半から、第5 類に移行する事となりますが、事業所としては高齢者施設として基本的感染対策を引き続き行い、運営を継続していきます。

今後の課題といたしまして、小規模多機能型居宅介護事業所は、淡路市には千鳥会の 2 事業所(ほほえみ・ぬくもり)のみとなっています。互いに連携、交流、情報交換等を深め、協力、連携を図る仕組み作りを行っていきたくと考えています。

そして、ご利用者・家族、地域住民の信頼を得て、地域社会のニーズに対し、小規模多機能としてできる柔軟なサービスを適切に提供していく事で、将来も継続できることを将来の展望と考えています。

2022 年度 佐野デイサービスセンター事業報告書

1. 総括

2022 年度も、感染対策を徹底してきましたが、当事業所でも、ご利用者、職員に感染が発生し、デイサービスの受け入れを中止した日が 10 日間、特定利用を中止した日が 1 月間ありました。そのことにより思う様に利用者の数が伸びず、安定した経営を行う事が出来ませんでした。台風や大雪などの自然災害においても 2 日間の休業を余儀なくされ、中々思うような事業運営とはいきませんでした。その中でも品質保証委員会を中心とした職員間での話し合いの機会を設け、様々なレクリエーションの企画を行い、利用者満足度を落とすことなく運営してきました。研修面では、未資格の職員が 2 名いた為、オンラインでの認知症基礎研修の受講を行い、知識を深めました。毎月の勉強会も職員が講師になる事で、より深い知識を得ることができました。職員では、1 名の退職があり、その代わりに入った職員も 1 か月で退職する事態となり、今後の新入職員教育の在り方を考えさせられる 1 年となりました。

来年度への課題及び展望

2023 年度より管理者が変更になることにより、今まで築いてきたサービスの質を落とさぬよう、そして新しい発想で向上していけるよう事業運営を行っていきます。今ある一番大きな課題として稼働率の向上が挙げられます。その為には、利用者満足度を向上させ、選ばれる事業所になる事だと思えます。新規利用者の確保も同時に行い、ケアマネジャーへの理解も深めていきたいと思えます。感染症の拡大を防ぐために今まで以上の感染対策を行い、ご利用者に安全に安心して利用できる環境づくりを行っていきます。感染状況を踏まえ、外部研修にも積極的に参加し、職員のスキルアップにも努めます。新入職員の確保と新入職員教育も見直し、職員にとっても働きやすい職場環境を目指します。そのことにより、利用者満足度を高め、稼働率の向上を図っていきます。

2022年度 ちびっこランドちどり事業報告書

1. 総括

今年度も、コロナ禍で過ごしてきましたが、子どもたちに安心・安全な保育を提供できるよう、日々感染対策を考え、マスクの装着・手洗い・消毒・換気に努め、保護者へも感染予防の注意喚起等のご協力をお願いし、感染症への予防徹底を行う一年でした。園児や職員のコロナの陽性者が発生した時には、兄弟関係で関係のある家庭の園児の自粛や、一時預かり事業の一部利用の中止を行い、感染対策を講じてきました。

行事計画は、四季を通し、様々な行事を職員間で話し合い、コロナ渦でも職員と子ども達が心から楽しめるようにと作成、実施しました。保護者の方からも、行事に対して喜びの声も沢山いただくことが出来、それらは職員にとって次への意欲となりました。

食育活動では、園の畑で夏野菜の栽培や、秋にはさつま芋の収穫をし、焚火で焼きいもをして食べ、子ども達もとても喜んでいました。種や苗を植え、水をやり、野菜が大きくなる過程を観察し、育った野菜を収穫し、収穫した野菜を食べるという一連の経験は、子ども達にとって貴重な経験になったことと思います。

保護者に対する支援では、子育ての悩みに共感し、助言をし一人ひとり向き合うようにしました。また、コロナ禍において難しい状況の中、SNSを活用し、園生活の様子、行事の公開等、子どもたちの成長を届けることに務めました。

コロナ禍において、日々大きな混乱もなく子どもたちが安心して園生活を遅れたことは喜ばしいことです。保護者の皆様にもご協力を頂いたおかげで、無事に一年を終えることが出来ました。まだまだコロナ対策が続き、ご迷惑やご不便をおかけすると思いますが、より良い保育を目指し、子ども達が笑顔で過ごせる保育園を目指し努力していきたいと思っております。

来年度への課題及び展望

核家族化進み、女性の社会進出や働き方の多様化なども相まって共働き世帯が増えています。保護者が子どもと一緒にいられないことが増えてきます。多様な子ども一人ひとりの発達状況に寄り添いながら、子どもの学びや育ちを適切にそして安全にサポートする役割が求められる為、広く豊かなまなざしを持って子どもと接していきます。

2022年度 ちびっこランドぬくもり事業報告書

1. 総括

千鳥会で唯一の保育施設事業は、ちびっこランドちどりでしたが、津名地区に2つ目となる「ちびっこランドぬくもり」が2023年2月1日に新規オープンいたしました。

開設前より保護者の方の口コミ等から新施設への入所希望者の問い合わせがあり、大変うれしく、ちびっこランドちどりでの実績が地域の皆様に評価していただいていたことを実感し、保護者の方の期待を裏切らないような保育環境を全職員で取り組みを行っていかうと思いをもち運営を開始いたしました。

コロナやインフルエンザといった感染症予防対策を講じながら2月1日に入園してきた園児3名。全員0歳児からの開園となり、職員も子どもたちも慣れない環境で最初は戸惑うことが多々ありましたが、1日1日共に生活していく中で少しずつ信頼関係が取れ、今では落ち着いた生活を送ることができています。保護者の方からも、2か月が経ち、園に行くようになり顔つきも変わってきて成長を感じるといった喜びの声も聞かれるまでになりました。これを励みに、来年度もより良い保育の現場を提供していきます。

来年度への課題及び展望

保育所は、子どもたちにとって社会生活を経験する初めての場所です。

2023年度は、集団で過ごす中で、健康でのびのびと生活をし、様々な社会性を身に着けて、安全で情緒の安定した生活を送れるよう、環境を整えて成長していける力を育てていくことを課題としています。

また保護者の方と一緒に子どもの成長に気づくことで子育ての喜びを感じていただけるよう、保護者と保育者が連携して取り組んでいける保育所の仕組み作りを目指していきます。

2022年度 千鳥会福祉用具貸与事業所

1. 総括・来年度への課題及び展望

高齢者や障害者をサポートし、介護する方の負担を軽減することも目指し、今年度も北淡荘の利用者を中心に福祉用具の貸与を年間118件行いました。

利用して頂く事で、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、利用者の希望や心身の状況、生活環境などをふまえ、適切な用具を選び援助していきたいと思っております。